

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

**事業所名**

さっちゃん家

日付 平成 21年 3月 27日  
特定非営利活動法人

**評価機関名** ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 看護・訪問看護経験5年  
福祉系短期大学教職員経験11年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

**1. 評価結果の概要**

**講評**

全体を通して(特に良いと思われる点など)

もう百年近い古民家を改造してグループホームとデイサービスの事業を営んでいたが、同じ敷地内空地にデイサービス事業所を新築し、それに伴いこの古民家の中を改修して9人定員のグループホームとして平成20年度から3名の新しい利用者を迎えた。この改装により、出来るだけ段差のない床になり、全体的に明るくなった。そして利用者の居場所も増え、それぞれ仲よしグループの溜まり場が出来た。新築のグループホームの様に、リビングルームが一つの空間で広がっているという造りには出来ないが、畳敷きの和室にソファを置いて多くの人が集まれる寛ぎの場所は元通り、そして小じんまりと語り合える場所が出来、新しく入所した男性2人の居場所となっている。そして食卓テーブルのある場所とそれぞれの利用者が自分の時間を過ごせるようになった。厨房や浴室、トイレ等の共用部分も改装され、使い易くなった。建物の外の倉庫等は解体されて、ホームの窓から、周辺の田や畑がよく見渡され、四季折々の風情が楽しめる。

101歳になった女性を筆頭に82歳までの女性5人と男性3人がそれぞれ仲よしのグループも出来て、皆明るく元気に生活している。そして9人の職員が利用者の生活を支えている。どんな障害があっても、みんな普通の人として地域の人々と共に生活しながら、その人らしい所を見付け出して、楽しい生活をして行こうというのが、このホームの方針である。新しく作ったパンフレットにも「みんなでおいでよ さっちゃん家」とある。まさにその通りで、家族の人もよく来ている。近所の人も勝手に上がってきて利用者や職員と話していく。行事は地域の人々や友の会のメンバーが支えてくれる。たまに行く私達には、どの人が職員やら家族やら近所の人かが区別がつかない位で、皆来る人すべて親しみの気持であふれている。男性職員は勤務時間外にはボランティアでホームに来て仕事をしている。そして夕方又やって来て、「今から夜勤です」と言ってくれた。流石、ボランティアの時と職務では服装も違うし、その動きも違う。流石と感心した。職員はホーム長とリーダーが常勤で他は全部非常勤であるが、利用者に対する愛情や働きぶり、責任感は何も変わりなく、一生懸命利用者に接している。以前はホーム長だけが常勤だったが、今年度からもう一人常勤になったそうだ。色々な計画や書類の作成が二人になって助かるそうだ。少し職員の退職者もあったそうだが、今は安定している。職員が明るく仲良くしている姿が、利用者にとって鏡となるので、職員のチームワークは大切であり、利用者が「自分が一番楽しく安心して過ごせるのは、このホームだ」と言ってくれる場所を作るのがグループホームの介護のプロ集団だと思う。全くその通りであった。

特に改善の余地があると思われる点

介護計画や記録類が、ホームの日常業務の柱となり、職員の毎日のケアやサービスの仕事の中に密着していけるような考え方、様式、関わり方等を考え直して貰いたい。一緒に考えていければと思う。

## 2. 評価結果 (詳細)

### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：平成16年に開設した時、地域の町内会や近所の人々に、このホームと認知症についての理解を得るべく、現在のホーム長が前ホーム長と一緒に根回しして十分に意思疎通に努めた。今夏増員してもその時の気持ちは全く変わりなく、地域と共に歩んでいる。</p> <p>2、全体的に見て…：利用者にとっては、スケジュールがない生活、すなわち一人ひとりの生活リズムや思いを尊重した生活をしている。地域の人に支えられ、利用者も新しい人と共に楽しく笑顔一杯で毎日の生活を送っている。それを支えているホーム長以下職員が、一番このホームでの仕事を楽しくており、笑顔でチームワーク良く落ち着きを取り戻した。このホームが、隣接のデイサービスと共に地域の拠点として発展していくであろう。</p>		

### II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：今年度改装して9人の生活が始まったばかりなので改善項目はない。9人の利用者が自分の居場所を設け、友達との交流も深まって、益々このホームの人の和の輪郭が太くなった。</p> <p>2、全体的に見て…：リビングと台所、食堂が繋がっているため、献立の話をしたり調理の進行を見たり、手伝ったり、味付けを確認したりと入居者がみなで食事づくりの楽しみを分かち合っていた。座る場所もソファ、肘置きのある椅子、肘置きのない椅子といったように入居者の個性と、その場の用途に合わせ、自分の居場所を選べるようなしつらえにしてある。共用部分はほぼホームの中央であり、自室への距離、トイレや浴室への移動、来客の様子等々が見えたり、聞こえたり、感じる事ができたりしている。職員もその場にいることが多いので、見守りができる。リビングの壁には、季節の飾り物、写真、入居者の作品等がさりげなく飾られていた。</p>		

### III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：ケアマネージメントについては、ホーム長以下全職員が、利用者との気持ちの通い合いを大切に、常に接しているため問題はない。利用者が自分の意思表示を明確に出来ない事もあるが、自分の家に行きたい希望は絶えず持っていると思うが、このホームで生活している事が一番楽しいと利用者にとって貰える様な日常のケアサービスが大切で、その事を家族にも理解して貰えると尚更良いと思う。</p> <p>2、全体的に見て…：利用者一人ひとりの人格の尊重について、このホームで一番大切にしている事は、常に利用者の立場に立った視線で行動する事である。即ちおむつを取り替える、スプーンを使ってご飯を食べている人の事を、職員が自分に置き換えてみたらどう思うかと考えてみる。すると、その人に対する気遣いやケアの方法は違って来るのではないかとホーム長は考えていた。</p>		

### IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：利用者9人に対し、職員数は9人を配置している。パート職員が多いので頭数だけで判断するわけにはいかないが、日中の1対3の職員数は確保出来ているので問題はないが、要介護5の利用者が4人と約半数が入浴や移動に手が必要で、認知症の人に対し、食事や排泄に対するケアを要する事項は大変多くなる。グループホームのケアの効果や、人間としての生涯を送って貰う為には、一応グループホームのケアのあるべき姿を描き、人員配置も考えていかねばならないと思う。ホーム長も問題意識を持っているので、これから協力して構想を作り、世に訴えていきたい。</p> <p>2、全体的に見て…：利用者の情報を共有化し、家族や医療関係者との情報交換をしながら、利用者一人ひとりについて、どういうケアをしていけば良いか、考えていきたいと、意欲を感じる事が出来た。今後のケアとサービスの質の向上に活かしていければと思う。</p>		